

	分解組立手順書 41	OV-29 R0
--	------------	----------

本手順書は、下記対象バルブ型式の分解組立手順書です。

作業を開始する前に、必ず『日阪ボールバルブ取扱説明書』を一読すると共に、必ず『日阪ボールバルブ取扱説明書』と、併用して使用してください。

また、分解組立するときは、各部品に傷を付けないよう細心の注意を払って行ってください

## 1. 対象バルブ型式：CH1

### 2. 分解

自動弁などの駆動装置付きの場合は、バルブを全閉にした後、再組立を容易にするため、分離箇所にマジックインキなどで相マークを印した上、駆動装置をバルブから取り外してください。

#### 2-1. 分解前

次の手順を守って作業を行ってください。

- 1)安全に作業できるように、十分な作業スペースを確保してください。
- 2)バルブを半開としバルブ内の圧力を抜いてください。またバルブ内に残っている流体を除去および洗浄してください。
- 3)再組立を容易にするため、各接合部にマジックインキなどで相マークを印しておいてください。
- 4)ボールシート、O-リングなどの消耗部品は新しい純正部品を準備してください。

#### 2-2. 分解

断面図（5頁）を参照して、次の手順で行ってください。各部品に傷を付けないように注意してください。内の番号は断面図の品番を示しています。

- 1)バルブを作業台に固定するなど安全に分解できるように配慮すると共に十分な作業スペースを確保してください。
- 2)バルブを規定のハンドルまたは適切なスパナ(但し、万一外れても怪我をしないよう注意して使用すること)などを用いて閉の状態にする。
- 3)スナップリング をスナップリングプライヤを用いて取り外す。
- 4)スペーサー 及びストッパ をステム から抜き取る。
- 5)六角穴付きボルト を六角レンチにて取り外す。

関連資料	日阪ボールバルブ取扱説明書				
発行日	2000.9.29.	F.N.	OV-29.jtd	承認	太田 2008.9.26.
改訂日			OV-29.dwg	検閲	
				作成	埴 2008.9.26.

- 6) ボルト をメガネレンチで緩め、トップフランジ 及び銘板 21 を取り外す。
- 7) 取り出したトップフランジ の下側よりステム を引き抜き、上側よりステムベアリング を取り出す。ステム からO-リング 及びスラストベアリング を取り外す。
- 8) ボディ よりO-リング を取り外す。
- 9) バルブの配管フランジを下にトップフランジ部を手前にして垂直に置く。
- 10) 上側のボディキャップ をネジが2山くらい出るまでピンスパナ (ピン径 5mm)を用いて緩める。
- 11) 緩めたほうのボディキャップが下に、トップフランジを手前にして垂直に置く。(この時ボールを手で押さえながら作業を行うこと)
- 12) ボディキャップ をピンスパナを用いて取り出す。
- 13) ボールをトップフランジ側より取り出す。(この時ボールは開の状態にしてボディに接触しないよう慎重に取り出すこと)
- 14) 緩めたほうのボディキャップをピンスパナを用いて取り出す。
- 15) ボディキャップより、O-リング 、ボールシート 、バックシート を取り出す。
- 16) ボルト を取り外し、ジャケット 及びO-リング を取り出す。

### 2-3. 分解後

- 1) 『日阪ボールバルブ取扱説明書』21, 22頁を参照して各部位の点検を実施してください。
- 2) 分解した金属部品を、水・スチームなどで清浄に洗浄してください。

## 3. 組立

### 3-1. 組立前

組立を行う前に次の事項を確認してください。

- 1) ボールシート , バックシート , O-リング , ステムベアリング , スラストベアリング の消耗部品は全て新しい純正部品を準備してください。
- 2) ボール , ステム に傷が無いか確認してください。傷があれば使用できません。新品を購入した上、組立てください。

## 3-2. 組立

断面図を参照して、次の手順で行ってください。

- 1) ボディ をジャケット面を下にして水平に置く。
- 2) 断面図を参照してボディキャップ の溝にO-リング (昭和化工(株)製セパオイルを塗布)を装着させ、バックシート 及びボールシートを入れておく。(以下O-リングはすべてセパオイルを塗布すること)
- 3) ボディ に、ボディキャップ を2山分だけ残してピンスパナ(ピン径5mm)にてねじ込む。
- 4) ねじ込んだ方のボディキャップの配管フランジを下にトップフランジ部を手前にして垂直に置く。
- 5) ボール のステム勘合部を手前にしボディ に挿入する。(この時ボールは開の状態で挿入し、ボディ内でボールを回転させ閉になるようにする)
- 6) もう片側のボディキャップをピンスパナを用いて完全にねじ込む。(このときシート 及び バックシート が落ちないように手で押さえながらねじ込むこと)
- 7) ボールが動かないように手で固定しながら、完全にねじ込んだほうのボディキャップが下に、トップフランジ部が手前になるように置く。
- 8) 図1を参照して、ステム にスラストベアリング 及びO-リング を入れトップフランジに下から挿入する。ステムが入り込んだらステムベアリングをトップフランジの上から入れる。
- 9) O-リング をボディ のトップフランジ側に入れておく。
- 10) トップフランジを断面図の取付け方向を参照してボディ に取り付ける。(このときO-リングをかみ込ませないように注意して装着のこと)
- 11) 断面図を参照して銘板 21 を載せ、ボルト を締め込む。
- 12) 断面図を参照にして、ボール 三日月溝底部とステム 下部が接触していないことを、ボール を指で前後に動かして確認する。

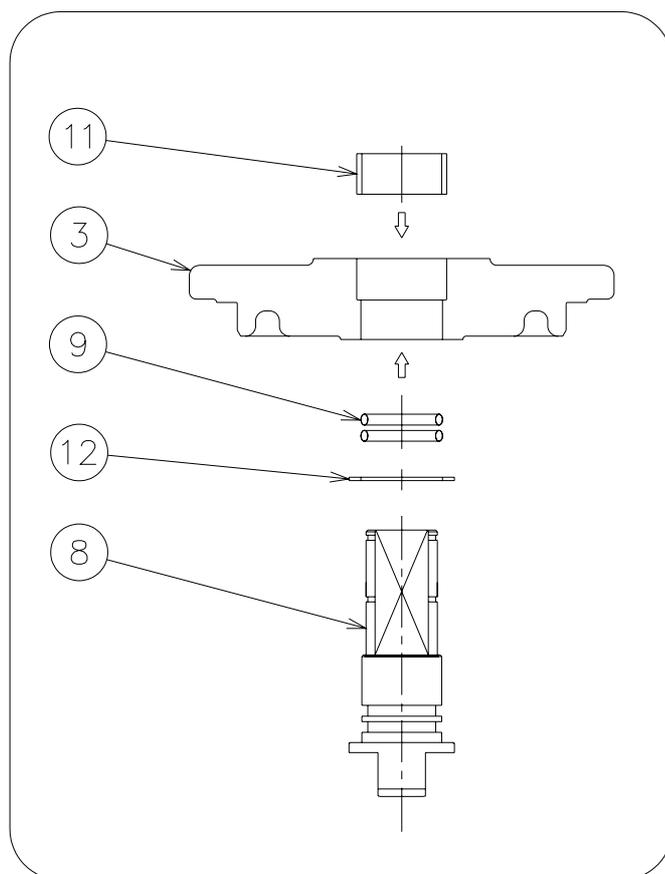


図 1

- 13) もう片側のボディキャップ を完全にねじ込む。
- 14) バルブをジャケット部を手前にして置き、O-リング を装着しジャケットをはめ込み、ボルト を締め込む。この時、O-リングをかみ込まないように注意して装着のこと。
- 15) バルブをジャケットが下になるように置き六角穴付きボルト を六角レンチにてトップフランジ にねじ込む。

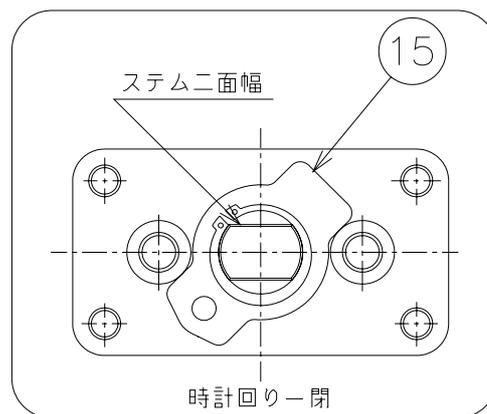
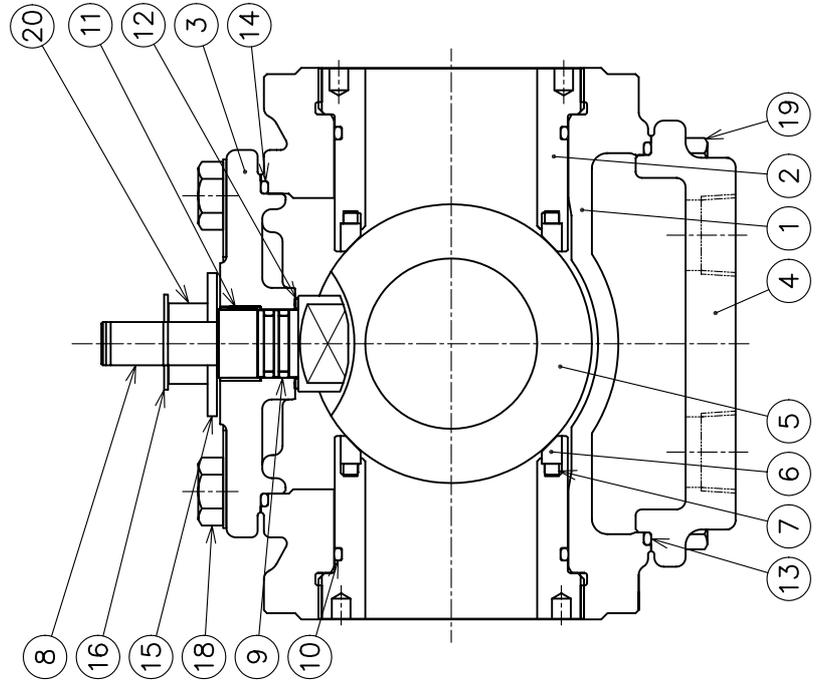
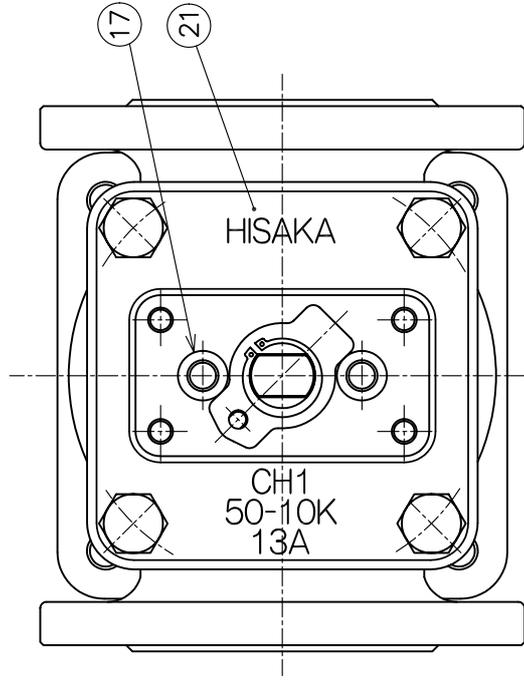


図 2

- 16) 図2を参照して、ステム の二面方向を確認し、時計方向に回すと閉になるようにストッパ を取り付ける。
- 17) ストッパーの上にスペーサー を装着しスナップリング をスナップリングプライヤを用いてステム の溝にはめ込む。
- 18) ハンドルまたは適切なスパナ(但し、万一外れても怪我をしないよう注意して使用すること)などでステム を反時計方向に回し、バルブを開の状態にする。この時、作動がスムーズであることを確認する。
- 19) バルブを時計回りで閉、反時計回りで開になることを確認する。併せて、全開時にボディ のポートとボール のポートが合っていることを確認する。

### 3-3. 組立後

- 1) 再組立したバルブは、耐圧検査および弁座漏れ検査を行ない、問題のないことを確認する。基本的には耐圧検査圧力は最高使用圧力の1.5倍とし、弁座漏れ検査圧力は使用圧力とする。  
検査は検査圧力の1/2程度まで昇圧し、各部が正常に組立されており、異常のないことを確認した後、異常のないことを確認しながら徐々に検査圧力まで昇圧してください。
- 2) 自動弁など駆動装置付きの場合は、バルブ仕様(駆動装置の開閉位置とバルブの開閉位置など)および分解前に付けた相マークを参照して、駆動装置を取り付けてください。
- 3) 装置にバルブを配管する場合は、『日阪ボールバルブ取扱説明書』に従って作業を行ってください。



品番	品名	数量
21	銘板	1
20	スプーサー	1
19	ボルト	4
18	ボルト	4
17	六角穴付ボルト	2
16	スナップリング	1
15	ストッパ	1
14	Oーリング	1
13	Oーリング	1
12	スラストベアリング	1
11	ステムベアリング	1
10	Oーリング	2
9	Oーリング	2
8	ステム	1
7	バックシート	2
6	ボールシート	2
5	ボール	1
4	ジャケット	1
3	トップフランジ	1
2	ボディキャップ	2
1	ボディ	1

CH1 (50A, 65A) 断面図